

企業概要

本 社	佐賀県三養基郡基山町小倉629-7
設 立	1957年
資本金	9,000万円
代表者	代表取締役社長 末吉 文晴
従業員数	195名
業 種	製造業
事業内容	・ アスファルトプラントの設計・製造・組立 ・ 建設機械や産業機械部品の製造・販売 など



脱炭素経営の背景とスローガン

■ 脱炭素経営のきっかけ・背景

田中鉄工は道路舗装材料”アスファルト合材”作のための設備”アスファルトプラント”のメーカーとして、経営理念「環境・社会課題の解決を通じて、”未来にある普通なこと”をステークホルダーと共創する」に則り、「道路舗装業界のカーボンニュートラル実現」を目指して取り組んでおります。

この目標を実現させるために、当社としては地域で産出されるバイオマス燃料(廃食油)を使って、地域の生活を支える道路を造る地域循環社会を形成して脱炭素化を進める”ロードカルSDGsプロジェクト”を進めております。

この取り組みを始めたきっかけは、お客様である「道路舗装業界」の方々が懸命に取り組まれている脱炭素に貢献したいという思いから始まりました。

また、当社自身のから排出されるCO2 (Scope1・2)を2028年度までにネットゼロにすることを目標に掲げ、最終的には2045年にはScope3を含めてカーボンニュートラルの実現を目指しております。

代表取締役社長 末吉 文晴



■ 社訓

義明 創意無限

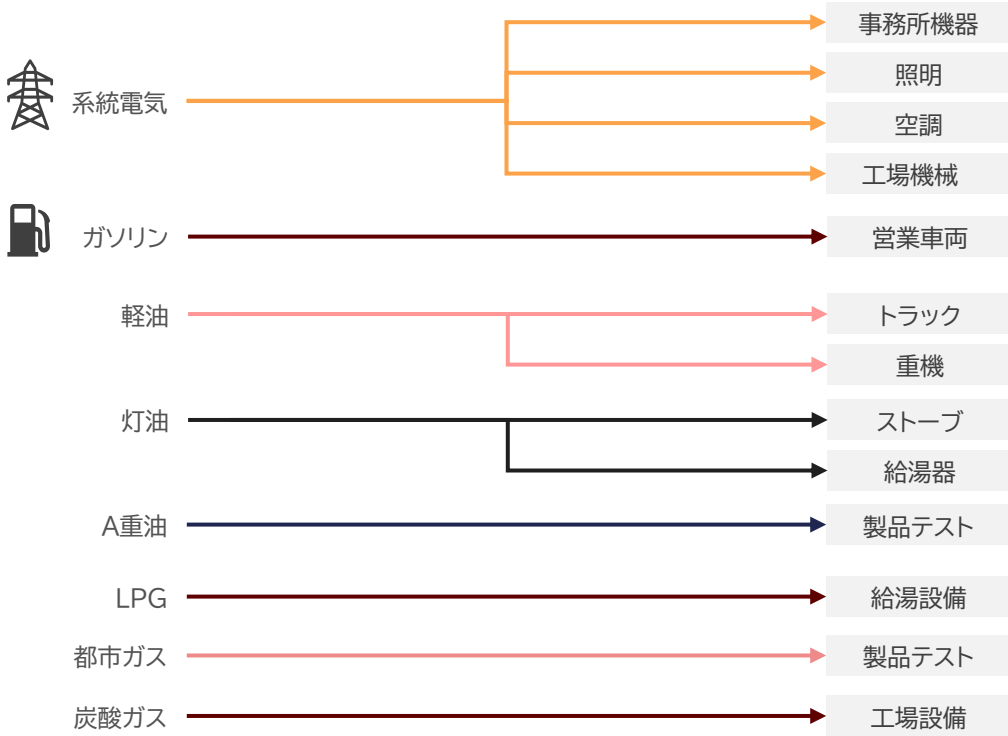
CO2削減を始めとし、環境並びにエネルギー問題が叫ばれる中、当社の企業理念である「創意無限」を具現化し、何事にもチャレンジ精神を持って、安心・安全で高品質な製品を提供し、これからも立ち止まる事無く信頼され続ける企業を目指します。

エネルギー使用状況の可視化

■ エネルギーフロー図

当社では、事務所機器や照明・空調に加え、工場設備で多くの電気を消費しています。燃料は、主に工場重機での軽油、ストーブで灯油、A重油、溶接機で炭酸ガスを使用しています。

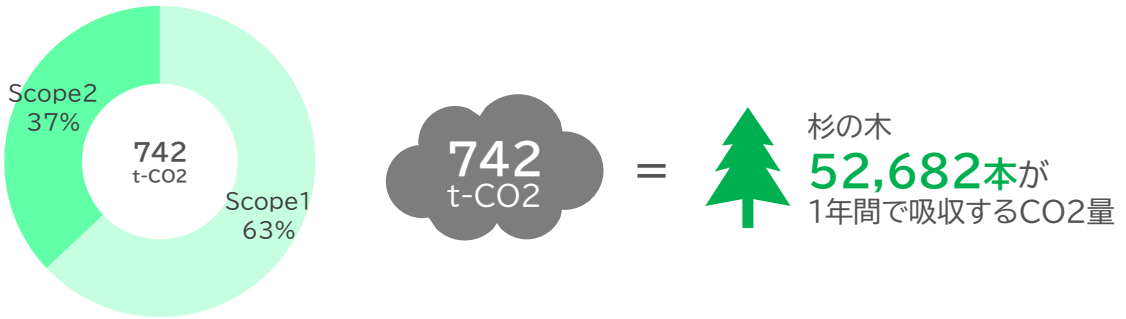
これらのエネルギーの再エネへのトランジションを戦略だてて進めています。



■ 自社排出量の内訳

2023年度の活動によって排出された自社温室効果ガス量Scope1,2の合計は742トンでした。これは、杉の木のCO2吸収量/年に換算すると52,682本分になります。

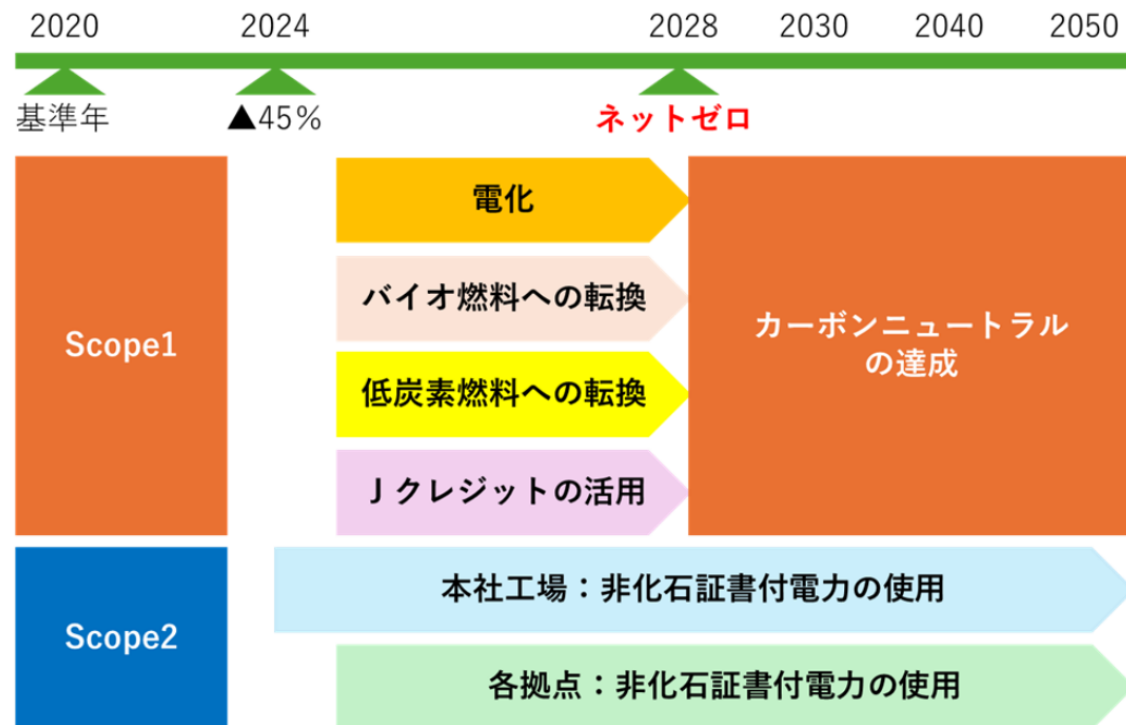
当社のGHG排出量内訳は、自社で使用する燃料由来のCO2排出量 (Scope1) が467.3t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量 (Scope2) が274.6t-CO2です。



自社GHG排出量の削減に向けた取組

削減計画の策定

2028年度までに自社から排出されるCO₂を実質0にするトランジション戦略を策定しております。
手始めとして、排出量が最も多い本社工場の電力をCO₂フリー電力に2024年に切り替え、他の計画も実行に移していきます。



GXリーグの取組

「GX率先実行宣言」にゴールドグレードとして宣言

GX率先実行宣言は、取組の具体度に応じてゴールド・シルバー・ブロンズにグレード分けされています。その中でもゴールドグレードはGX製品・サービスの採用方針を掲げていること、Scope 3 (またはScope 1, 2)削減目標を設定していること、その達成に向けGX製品・サービスの採用に係る定量目標を掲げていることの3つを全て公表している企業のみ宣言することができます。日本全国で11社(2025年3月時点)がゴールドグレードとして宣言しています。

宣言の主な内容はグリーンスチール供給体制の構築の支援とScope 3のカテゴリ1の削減目標の設定です。自社で製作する製品に使用する鋼材は2030年までにすべてをグリーンスチールへ転換する目標に合わせ、主要な製作協力会社と共同でグリーンスチールへの転換を進め、サプライチェーン全体の環境負荷軽減とカーボンニュートラルへの貢献を強化していきます。

Scope 3のカテゴリ1に関しては当社で購入する鋼材(年間約1,300t)をグリーンスチールへの転換を進めることにより、カテゴリ1の排出量(5,264t-CO₂eq)のうち612t-CO₂eqの削減を実現し排出削減率12%(2030年度目標)に直接的に寄与します。

ゴールドグレードの宣言が行えたのも本事業においてScope 3のカテゴリ1の算出を行ったことが大きいです。

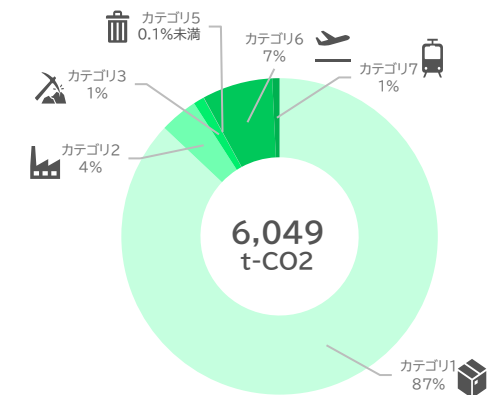
サプライチェーン取組

■ サプライチェーン排出量の算定

サプライチェーン全体のCO₂排出量(Scope 3)は、当該年度の算定対象範囲において6,049t-CO₂でした。当社では、サプライチェーン排出量(Scope 3)のカテゴリ1, 2, 3, 5, 6, 7の算定に取り組んでいます。原材料などの購入品生産過程で出る排出量が最も多く、削減に向けてグリーン調達を行っています。

カテゴリ1	購入した製品・サービス	5,264 t-CO ₂
カテゴリ2	資本財	235 t-CO ₂
カテゴリ3	燃料・エネルギー関連活動	67 t-CO ₂
カテゴリ5	廃棄物	1.8 t-CO ₂
カテゴリ6	出張	436 t-CO ₂
カテゴリ7	通勤	45 t-CO ₂

Scope 3内訳(2023年度)



2024年度は上流側のカテゴリを金額ベースで算定しました。それ以外のカテゴリ(4・9・11)は算定するために必要なデータの確認と課題の整理を行いました。これからは算定を継続し、算定範囲を拡大・深化するための仕組み作りに取り組んでいきます。

■ オープンイノベーションに向けて

脱炭素社会・地域循環型社会を構築し、2050年にカーボンニュートラルを達成するためにも、様々なステークホルダーと共に“未来にある普通のこと”を共創するために、情報交換の場を設けて共創パートナーの開拓を行っています。

Global Goals Day(SDGsが採択された日)の9月25日に、田中鉄工主催の講演会「サプライチェーン全体で取り組む 脱炭素社会の実現」～カーボンニュートラルと成長戦略～を開催し、総勢184社301名の参加者へ向けて脱炭素に向けた取り組みの必要性を訴えかけました。

その他にも個別に企業・行政・官公庁を対象に情報交換会を2023年度、2024年度の合計で約580回開催するなど、精力的に情報発信に努めています。

■ ROACAL SDGs PROJECT

地域のグリーンサプライチェーンと協力し、地域の家庭や飲食店等から発生したバイオマス燃料である廃食油(UCO)を、アスファルト合材製造時の石油代替燃料として、その地域の誰もが利用する道路や歩道に還元し、地域循環社会を形成して脱炭素化を進める取り組みを「ロードカルSDGsプロジェクト」として官民一体で進めております。

このロードカルSDGsプロジェクトでは地域住民の方も参加して頂くために、家庭からの廃食油の回収を進めることにも取り組んでおり、行政・企業・住民の方と一緒に、地域社会の発展と共に脱炭素社会の構築に努めております。

